



棧敷席 4月2日(月) より販売開始

◎観覧料：第1部 19:30頃 【S席】4,000円 【A席】3,000円

第2部 22:30頃 【S席】3,000円 【A席】2,000円

◎取扱窓口：FKKエアーサービス株式会社 <http://fkkair.jp/>



神幸行列 5月15日(火) 9時30分～15時

伏木神社の春季例大祭の御輿の巡行に、子供達の母衣武者行列や、花傘、太鼓が随徒します。



会場周辺は大変混雑するため、公共交通機関をご利用ください。伏木駅から本町広場まで徒歩約10分です。

- 祭の前夜5月14日「青山ライトアップ」は山倉前で行われます。(19時～21時)
- 山車は午前中に各山車町内を奉曳し、伏木神社に礼拝後、10時30分頃本町広場に集合します。
夕方、山倉前で花山車から提灯山車へ、模様替えをします。
- 十七軒廻廻船問屋の小判・餅まきは、12時頃伏木駅前で行われます。
- 19時30分頃のかっちゃんば、6本の山車が並んで氷見伏木信用金庫前まで移動した後、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かっちゃん終了後は奉曳順路に戻ります。
- 22時30分頃のかっちゃんばは奉曳順路途中で、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かっちゃん終了後は奉曳順路に戻り、伏木神社礼拝をもって祭礼行事は全て終了となります。

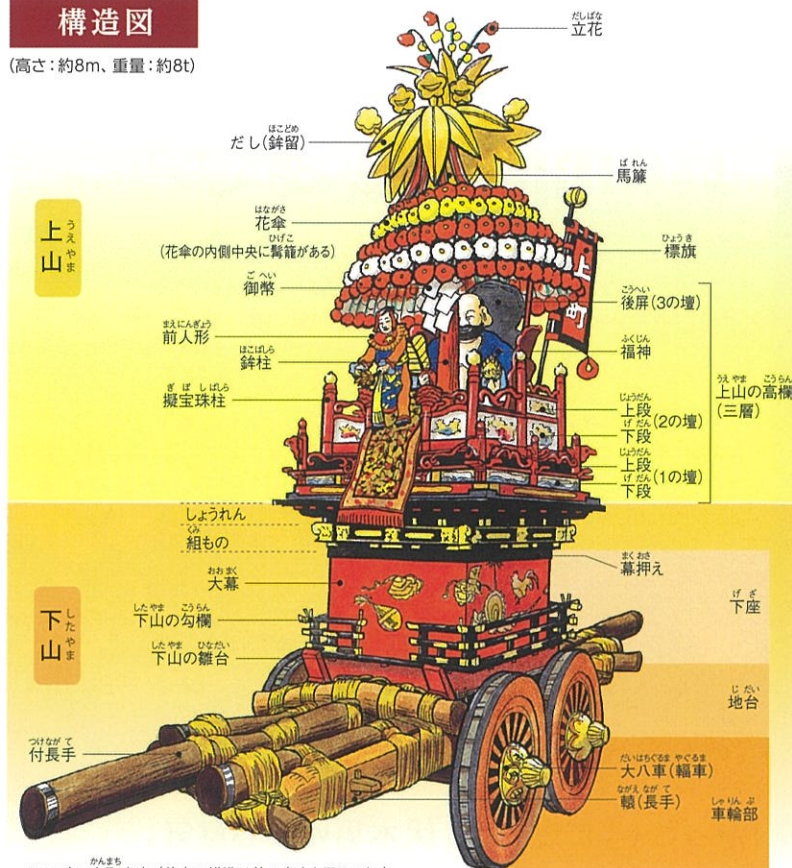
高岡市観光交流課

〒933-8601 富山県高岡市広小路 7-50 TEL (0766) 20-1301 FAX (0766) 20-1496
高岡市観光ポータルサイト「たかおか道しるべ」 <https://www.takaoka.or.jp>

「けんか山ホームページ」 <http://www.senmaiike.net/kenkayama/> けんかやま



(高さ:約8m、重量:約8t)



※モデル ^{かんまち}上町山車（基本の構造は他の曳山も同じです。）



所要時間＜電車・飛行機・自動車＞ 鉄道の所要時間は、それぞれの区間の最速です。

電 車	東京駅	北陸新幹線 かがやき・はくたか				新高岡駅	
			2時間20分				
	大阪駅	サンダーバード 2時間31分	金沢駅	北陸新幹線 はくたか・つるぎ 13分 IRいしかわ鉄道 あいの風とやま鉄道 38分	新高岡駅 高 岡 駅		
	名古屋駅	東海道新幹線 ひかり・こだま 19分	米原駅	特急しらさぎ 1時間51分	金沢駅	北陸新幹線 はくたか・つるぎ 13分 IRいしかわ鉄道 あいの風とやま鉄道 38分	新高岡駅 高 岡 駅
飛行機	羽田空港	全日空 1時間	富山ときと空港	バス 20分	富山駅	あいの風とやま鉄道 17分	高 岡 駅
	練馬IC	関越自動車道 78.6km	藤岡JCT	上越自動車道 204.7km	上越JCT	北陸自動車道 138.3km	高岡砺波 スマートIC ≈約5時間
自動車	吹田IC	名神高速 109.5km	米原JCT	北陸自動車道 203.3km	小矢部・砺波JCT	能越自動車道 13.7km	高 岡 IC ≈約3時間40分
	一宮IC	名神高速 4.6km	一宮JCT	東海北陸自動車道 184.8km	小矢部・砺波JCT	能越自動車道 13.7km	高 岡 IC ≈約3時間

〈高岡駅より〉JR：氷見線→伏木駅(約15分)下車すぐ
 バス：伏木経由氷見行、伏木循環(東廻り・西廻り)→伏木支所前臨時バス停下車
 〈高岡ICより〉国道8号線 富山方面へ「下田」交差点左折→約20分
 〈高岡北ICより〉県道32号線 伏木方面へ→約15分

 お祭りシャトルバス **乗車無料** 高岡駅前7番のりば↔伏木駅前観光駐車場

●高岡駅前(古城公園口)発
17:30・18:00・18:30
19:00・19:30・20:30

●伏木駅前観光駐車場発
21:00・21:30・22:00
23:00・23:30・24:00

(公社)高岡市観光協会 TEL(0766)20-1547
高岡駅観光案内所 TEL(0766)23-6645
伏木観光推進センター TEL(0766)44-1199
新高岡駅観光交流センター TEL(0766)30-2626

TEL(0766)20-1547
TEL(0766)23-6645
TEL(0766)44-1199
TEL(0766)30-2626



H30.3/25,000

五月、春の陽光の下、潮の香りを含む港町を、
威勢のいい掛け声とともに練り歩く花山車。
宵闇が迫る頃、それは提灯山車に組み立てられ、
約三百六十個の提灯を揺らしながら、
目もくらむような激しいぶつかり合いを繰り広げます。
伏木曳山祭、通称「けんか山」には、
勇ましい港町の心意気が満ちあふれています。

あの熱気
その迫力
この衝撃

高岡市指定無形民俗文化財

伏木曳山祭

平成30年5月15日(火)



富山県高岡市

新高岡駅をご利用ください





ときめき、わき立つ、港町「伏木」の伝統と心。

伏木は、恵まれた地の利から、天平時代には越中国府が置かれ、万葉の歌人でもあった大伴家持が国守として、赴任。また近世からは越中有数の港町として栄えてきました。

伏木曳山祭は、その港町の海上安全と海岸を鎮護する伏木神社の春の祭礼として行われます。始まりは江戸後期の1814年（文化11年）。海岸にあった神社が波で崩れ、現在地へご神体をお渡りする時のお乗り物として曳山が造られたと伝えられています。

神座に七福神がまつられた壮麗な曳山は、まさに港町伏木の歴史文化のシンボルであり、かぎりない誇りです。

昼は美しい花傘を広げた花山車として、夜には約360個もの提灯で彩られた提灯山車として、潮風をまとい行く粋と意気がわき立つような鮮やかさ、勇壮さは人々をどよめきの渦でつつまます。



伏木神社

昼は春の爽やかな潮風と共に

花山車

《はなやま》



夜は激しく燃える炎のごとく

提灯山車

《ちょうちんやま》



「かっちゃ」に燃える、伏木男児の心意気。

先端に付長手という約5mの檜の太木を、大砲のごとく取り付け付けた曳山の重さは約8トン。宵闇が迫ると、花山車から提灯山車へと姿を変え、期待と興奮の渦に町全体が包まれます。

やがて腹の底に共鳴するように山鹿流出陣太鼓が鳴り響くと、地鳴りとともに動き、駆ける山車と山車が全力でぶつかり合います。これが祭りの最高潮「かっちゃ」です。

「かっちゃ」は、伏木の男たちが心意気のすべてを込め、その心意気が輝き燃える一大イベントです。



宵山ライトアップ

5月14日(月) 19時～21時

山倉前にて、花山車のライトアップとともに、威勢のいい囃子で祭の前夜を盛り上げます。

町・山車

花山車

だし（鉾留）
福神
前人形
後屏（鏡板）

特徴

かんまち
「上町」
ささ山車



ささりんどう えんじゅちんせい
笹竜胆（延寿長生）
はてい
布袋（天明元年1781年作）
からこ
唐子（操り人形）
こうへい
黄石公と張良（中国の故事）

文人画の「蓬萊群仙図」を偲ぼせる多数の仙人彫刻と、その構図の巧みなことで、躍動的な造形と合わせて伏木曳山の白眉と言えます。

なかまち
「中町」
ひょうたん山車



せんたひりやうたん しそんまだい
千成瓢箪（子孫萬代）
ふくろくじゅ
福祿寿（天明元年1781年作）
からこ
唐子（操り人形）
せきだいつ
郝大通（中国の仙人）

下山の構造が伊達柱になっているなど、行装が他の山とは違って、高欄の欄干に止まらせた小鳥はこの山の独特のデザインで、下山の彫物の均整のとれた美しさと共に見どころのひとつです。

みなとまち
「湊町」
ちょうちょう山車



こちゅう ざいふくどく
胡蝶（財宝福德）
びしやもんてん
毘沙門天（明治34年1901年作）
からこ
唐子（操り人形）
こうせきこう ちやうりやう
黄石公と張良（中国の故事）

唐木の後屏や褐色で統一した上山の彫刻など、全体に男性的な偉容を誇っています。また擬宝珠柱や横木類の朱と金地との鮮やかなコントラストも見事です。

いっさかまち
「石坂町」
字山車



かいしよ じふ ぶらう ちやうじふ
楷書の壽の字（不老長寿）
たいくでん
大黒天（万延元年1860年作）
からこ
唐子（操り人形）
きくじどう
菊慈童（中国の故事）

「菊慈童」に因んだ大輪菊の彫りものが見事です。高欄の上段が一連の透かし彫りふうの丸彫朱欄になっており、下山の小壁部分がハメ込み式の「箱欄間」になっています。

ほろまち
「寶路町」
せんまい山車



かさ せんまいふんどう ふうき ちきざい
重ね千枚分銅（富貴蓄財）
あひす
恵比須（制作年不祥）
からこ
唐子（操り人形）
せいおんぼ
西王母（中国の故事）

後屏の主座に「標山」の西王母を立て、上山の彫りものは西王母と山神の恵比須（波清文と「高砂」の姉妹）ゆかりのモチーフによって、整合的に装われています。

ほんまち
「本町」
がんがら山車



これい ほうらいしやうふく
鉦鈴（宝来招福）
ふんさいてん
弁財天（天明元年1781年作）
わ こんばんそう
和子三番叟（操り人形）
かん ぶてい
漢の武帝（中国の故事）

全体に金碧の効果が傑出しており、特に竹林の緑色との対照は鮮やかです。また白漆塗の透かし欄間は独自のもので、出来映えも見事です。

じゅうしちけんちやう
「十七軒町」
ほら貝山車



ほらがい みらいえいごう
法螺貝（未来永劫）
じやうじん
寿老人（平成16年復元）
からこ
唐子（平成20年復元）
つるかめ
鶴亀（中国の故事）

十七軒町の曳山は、明治の大火で焼失しましたが、伏木町とけんか山が永遠に発展することを願い復元いたしました。高欄には、「未来永劫」を表す鶴のほか、親子獅子や四神獣の彫刻が施されています。